



マンスリータイムズ みはま

11月号②

二学部 移動博物館を実施しました！

11月8日(水)に二学部移動博物館がありました。9月に実施した一学部につき、今回も県立自然博物館から2名の学芸員さんがミノカサゴやガシラ等の魚やヤドカリ、ヒトデ、カニなどの水生生物、その他キツネやアナグマなどの剥製を持ってきてくれました。

ヤドカリやヒトデは実際に触ることができ、実際に手に持ちどんな形や動き方をしているのか、肌触りはどうか、など、興味津々で観察する姿が見られました。また、今まで触ったことがなかった人も勇気を出して触る姿も見られました。動物の剥製などを観ている人たちからは『狸は家の近くで観たことある』や『キジは近所の畑でよく鳴いている』など、自分の経験と重ね、動物の生態等について考える様子が見られました。

今回、移動博物館に来ていただき、実際に生き物に触ったり、学芸員さんに詳しく説明してもらったりすることで本やインターネットで見ただけでは気づかない点に気づくことができ、とても有意義な時間になりました。



「凸凹があるって、実はエエこと」

～二学部高等部1年生が働き方について考えました～

11月16日(木)、二学部高等部1年生の自立活動の時間にTETAU 事業協同組合の森脇碌さんが「TETAUの紹介」をしてくださいました。『TETAUは世界でいちばん凸凹なデザインファームです。』という表現で始まったお話は、将来の働き方の選択肢としてたいへん興味深いものでした。TETAUでは、テレワークの形態で、自分に合った役割を担って仕事に取り組みます。一人ひとりの価値観やペースが大切にされ、それぞれの良いところを組み合わせることで課題解決・価値創造のプロジェクトを企画・運営しているそうです。

必要な時にバーチャルオフィスへ出勤することや、和歌山からでも東京の仕事に携われること、メンバーは皆それぞれ課題を抱えているので人間関係が良好なこと、役割分担の中、失敗しながら学ぶことができる環境であること等、その具体的な中身を知ることができました。「自分のペースで」「得意を活かして」…、なんだかホッとさせるキーワードをたくさん聞くことができ、既存のイメージを覆す新しい働き方に触れ、生徒たちからも積極的に質問が出ていました。

「凸凹があるということは、実はエエこと。人間は凹みがあるからこそ、出ている人を受けられる。次回までに、みなさんそのエエ部分をたくさん見つけておいてほしい。」と、次につながる素敵な約束をいただき、第1回目の授業を終えました。次回が楽しみです。

森脇さんは本校の学校運営協議会委員です。「みはま“be yourself”プロジェクト」の1つ、「自分らしさをキーワードにしたキャリア教育の充実」の取組として、高等部2年生には年間を通じて講師として授業を実施していただいています。

